



瀬戸内観音記念法会の風景

住職の挨拶
「皆様、今日はいよいよお参り
下さいました」



500名を
超える大勢のご参拝
感謝！！



お砂ふみ会場・トラックセンター

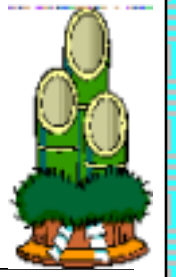


和太鼓演奏会
おうどんお接待



振励館〔旧誠之館講堂〕跡石碑除幕式

能満寺便り



本年も残り僅かとなり
ました。皆様方も年の瀬
を迎え、新年の準備に慌し
くなく

謹賀新年

さつている事でしよ
う。今年一年大変お
世話になりました。
今年11月にフ
ランスで同時多発テ

(発行)
広島県福山市
西町1-20-3
妙智山普門院
能満寺
Tel 922-2729
Fax 932-1708

九月一日に三
年に一度毎年輪番で
開催される。瀬戸内
観音記念法会を当院
にて厳修いたしました。
澄み切った秋晴
れに恵まれ、瀬戸内
観音霊場の諸大徳様
をお招きし、五〇〇
名近い方々のお参り
を頂き、世界平和・
万民豊楽をお祈りし
無魔法要をお勤め
しましたこと、住職
として法外の喜びで
ございました。ひと
えに仏天のご加護と
檀信徒各位のご理解・
ご協力の賜物と感謝
いたしております。

瀬戸内観音記念法会厳修



有り難うございま
した。
また、法会に先立
ちまして振励館の記
念碑除幕式には、福
山誠之館高校古前校
長先生を始め、西小
校長、福山市教育委
員会学校教育部長、
東京誠之舎理事様等
がご参り下さいまし
た。また、法会に先
立ちまして振励館の
記念碑除幕式には、
福山誠之館高校古
前校長先生を始め、
西小校長、福山市
教育委員会教育部
長、東京誠之舎理
事等がご参り下さ
りました。また、法
会に先立ちまして、
振励館の歴史を風
化させることなく後
世に伝えることが
出来ました。尚、今
回の式典は中国、読
売、山陽新聞の各
社朝刊に取り上げ
ていただきました。



りますが、犠牲者の
御霊が安んずるよう
お祈りいたします。
さて、痛ましい事件
が報道される度に
「本日の幸せって何
だろう？」と感じる
方もおられるでし
ょう。お釈迦様は
「尊敬と謙遜と満足
と感謝と、耐え忍ぶ
こと。言葉のやさし
いこと。諸々の道の
人に会うこと。適当
なときに理法につ
いての教えを聞くこ
と。これがよなき幸
である。」【仏典ス
ッパニパータより】と
説かれました。
これらは全て人と人
との繋がりを前提
とした行為から生ま
れる感情です。お釈
迦様の言葉は、人様
との繋がりを持たな
ければ幸せは感じ
ない。つまり『幸せ』
は人様との関係。絆
の中にこそ生まれる
のだと言っているの
です。現代社会はイ
ンターネットの時代
、人々は安易かつ膨
大な情報にさらされ
、気が付けば他人様
との付き合いが苦手
になり、幸福感を感
じていく環境に生き
ていくと言います。
皆様も人様とのご縁
の中に幸せを感じ
つつ、お付き合いを
大切に日々の生活を
過ごされては如何で
しょうか。最後に皆
様の新年が平和で
より安楽にお迎え
出来ますよう、能満
寺一同心よりご祈
念申し上げます。

瀬戸内観音霊場
団体参拝者募集

この度、アサヒ観
光様と東洋石材様
との協力の下、来
年三月より新規に
瀬戸内観音霊場の
参拝を始めます。
日帰りの

院内短信

◎奉納旗(赤いのぼり)
お施主様募集して
おられます。のぼ
り(例)・家内安全
先祖供養 合格祈
願等々を記し一年
間境内に奉納いた
します。奉納料は
一年間四千元です。

◎正月十日(日)
午前10時より
別紙ご案内、常
例の正月行事であ
ります。大般若六
百巻転読法要を
厳修いたします。
ご法話・ぜんざい
お接待します。駐
車場は西小学校
です。

先着百名様に新年
の粗品を差し上げ
ます。◎境内清掃
奉仕の後任を島田
寛昭さんにお務
め頂きます。◎能
満寺境内墓地三
区画永代使用権
者を募集致します。
詳細は当院へ。
◎住職、長年の懸
案であったインド
仏跡巡礼に二月四
日から十日間出張
します。

コースで六回に分
けて三十三ヶ寺を
全てお参りいたし
ます。また、今回
の参拝の特別な特
典として、参拝
寺院ご本堂にて、
瀬戸内観音ご住職
様によるご法話を
予定、またミニ観
光も計画してあり
ます。巡礼が初め
てな方も日帰りの
気分です。バス遠
征で楽しく気楽

十一月十五日か
ら四日間、高野山
大師教会教師研
修道場にて参籠
の修行に行つて
まいりました。朝
五時起床から午
後九時半就寝ま
で作務と読経と
座学漬けで日々
に引き締まった
時間を過ごしま
した。また、高
野山伽藍金堂に
て法要付理趣三
昧の経頭の配役
を賜り、本山に
て良い経験を積
ませ頂きました。

高野山参籠報告と
少僧止補任報告